

邑(むら)の映画会実行委員会は、群馬県の「映像教育」の発展を目指し、世界で製作された多様な映画作品の上映やワークショップ活動を行っています。この会を通して、子どもも大人も夢をふくらませ、映像文化によって心豊かな感性が育まれることを願っています。

子ども映画教室

ワクワク・ドキドキ 映画のふしぎ

映画はいくつかのショットが
つながり合っていてできているよ。



ふだん見ているときに、
いくつかのショットがあったかな、
と数えてみていないね。



よく見ると、人の顔が大きくうつったり、
きれいな風景に切り替わったり、
映像はいろいろに変わっていくね。

《いくつかのショットがあるか数えてみよう》

片目を閉じて見る、「フレーム」の紙を通して見るなどためてみよう!

ふだん見えているものが違って見えるはず!!!

「意識して見る」ことで、新しい発見が生まれるよ。

アニメーション作品、映画教室の先生たちが

撮った「先生たちの短編」を見ながら

映画の不思議と一緒に感じよう!



こがねの花

1929年/日本/17分/35mm/白黒
監督:大藤信郎

団子兵衛(だんごべえ)、とおくの村のまつりに
まねかれた。村人を楽しませての帰り道、こ
らがりとうげにまよいこむ。そこに大蛇(だい
じゃ)があらわれた。大蛇はたばこのヤニが大
きらい。団子兵衛はわざわいのものになるお
かねがおそろしい……。どうなっちゃうの? 楽し
い切り絵アニメーション。

スチール・フィルム提供:国立映画アーカイブ



リトル・アンブレラ

1957年/チェコ/15分/DVD/カラー
監督:プジェチスラフ・ボヤル

みんながねしすまっところ、おもちゃがあつ
まてパーティーがはじまった。シャボン玉のダ
ンス、つみ木や人形たちのきょくげい……。自分
では動かないおもちゃが、いきいきとダイナ
ミックに動く。さあ、みんなでふしぎな夜をの
ぞいてみよう。ワクワク、ドキドキ、人形アニメ
ーション。

©Krátký Film Praha, a.s. 配給:アットアームズ



タラタ

1977年/カナダ/8分/35mm/カラー
監督:フレデリック・バック

今日は町のおまつりだ。楽器をえんそうしたり
おどったり、にぎやかにパレードが続く。そ
こにパレードを見ようと男の子と犬がやっ
て来た。でも人がいっぱいで見ることができ
ない。男の子は目をして楽しい子どもたちの
パレードをそぞろする。色えんぴつや切り絵
で、クルクル動くアニメーション。

© Société Radio-Canada



おじいさんとかくれんぼ

2018年/フランス/7分/ブルーレイ/カラー
監督:アンヌ・フィン

おじいさんの家で夏をすごした男の子に「私
がいなくなったら、庭の木や花のせわをして
くれよ」とたのむおじいさん。男の子は「おじ
いさんは死んだらどこへ行くの」とたずね
る。「バラの花びらになるか、それともちよ
うになって庭を飛びまわるかな」美しい日々を
フランス語と油絵であらわしたアニメーション。
©Folimage Studio 配給:オフィスH

【子ども大人映画館】 レッドタートル ある島の物語

2016年/日本・フランス・ベルギー合作/81分
DCP上映
監督:マイケル・デュドク・ヴィット

2001年、アメリカアカデミー賞を初めてとして、
世界中で様々な賞を受けた「岸辺のふたり」
(原題「父と娘」)の監督による、初めての長編
アニメーション。スタジオジブリから声をかけて、高畑勲がアーティストディレクターに名を連
ねる。無人島に男が流れ着く。男は脱出を試みるが上手くいかない。立ちあがったのは、赤いウミ
ガメ。一切のセリフを排して、生と死、自然と愛を掘り下げていく。

©2016 Studio Ghibli / Wild Bunch / Why Not Productions / Arte France Cinéma / CN4 Productions /
Belvision / Nippon Television Network / Dentsu / Hakuho DYMP / Walt Disney Japan / Mitsubishi / Toho



【大人映画館】 キューポラのある街

1962年/日本/98分/35mmフィルム
上映/白黒 監督:浦山桐郎

原作は日本児童文学協会賞を受賞
している、早船ちよの同名小説。日
活は、浦山桐郎の監督昇進にあた
った条件は、吉永小百合を主演
として起用する。だった。浦山が助
監督としてついていた今村昌平と
の協同脚本。

昭和三十年代のまだ不安定な社会
を背景に、貧困とはなにか、を問いかけた。今も胸をうつ、真摯なデビュー作である。北朝鮮へ
の帰国事業が描かれているが、これを今どう見るかも、大事なところだ。©日活



講演: アニメーションと実写

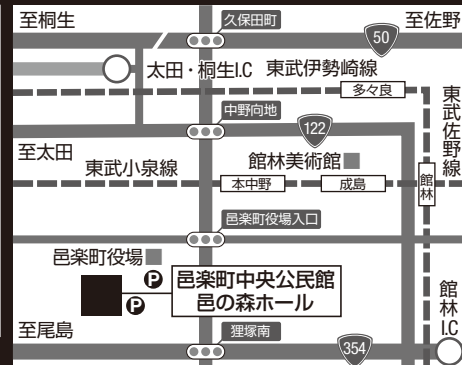
「レッドタートル」と「キューポラのある街」を比較してみると、それぞれのジャンルが得意とすること、不
得手とすることが、歴然と分かる。一つには「社会性の映り方」だろう。どちらがよい、悪いと、簡単に切り
分けられるものでもなさそうだ。映画的な時間がどちらにどう立ち現れてくるのか、を考えてみたい。

邑の映画会顧問 映画監督 小栗康平



プロフィール

1945年前橋市生まれ。早稲田大学第二文学部演劇専修卒。81年の監督第一回作品「泥の河」はモスクワ映画祭銀賞、米アカデミー賞
外国語映画賞ノミネートなど高い評価を受け、以後、84年「伽椰子のために」(仏ジョルジュ・サドール賞)、90年「死の棘」(カンヌ映画
祭グランプリ・カンヌ1990/国際批評家連盟賞)、96年の群馬県人口200万人記念映画「眠る男」(モントリオール映画祭審査員特別
大賞)、2005年「埋もれ木」(カンヌ映画祭特別上映作品)、2015年には日仏合作映画「FOUJITA」発表。過去五作品がDVD・BOOK
「小栗康平コレクション」として「FOUJITA」は別巻としてBlu-rayで、それぞれ駒草出版から発売されている。BOOKには批評家、前
田英樹との対談を併載。著書「時間をほどく」(朝日新聞社)「映画を見る眼」(NHK出版)「じっとしている唄」(白水社)などがある。



主催 □ 邑の映画会実行委員会/邑楽町邑楽町光善寺275-2 共催 □ 邑楽町教育委員会
協賛 □ 館林西ロータリークラブ/朝日印刷工業(株)/ (株)群馬AVセンター/高源寺/恩林寺/加藤医院
賛助会員 □ 「邑の映画会かわらばん」
後援 □ 邑楽町/群馬県/群馬県教育委員会/館林市教育委員会/板倉町教育委員会/明和町教育委員会/千代田町教育委員会/大泉町教育委員会/上毛新聞社
朝日新聞社前橋総局/毎日新聞前橋支局/読売新聞前橋支局/産経新聞前橋支局/東京新聞前橋支局/群馬テレビ/エフエム群馬
公式サイト □ <http://kenokuni.jp/muracinema>

会場交通案内 東武小泉線本中野駅より徒歩15分。
北関東車道太田・桐生ICより20分。東北道館林ICより20分